

『日本肝臓論』 ～ 同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着ける ～

2023年4月6日早朝、第165回『言葉の院外処方箋』を拝読された方から【樋野先生、お早うございます。ご無沙汰致しております。先生の『日本国のあるべき姿』として『日本肝臓論を提案している』を選挙戦真っ最中の昨今で友人、知人が立候補しており、SNSへの投稿時にリファー致したく、宜しいでしょうか？また先生の立ち位置で、新渡戸先生は敬愛する、尊敬する、現代の新渡戸を自負する、新渡戸を目指す等々の表現は如何でしょうか。】との心温まる励ましのメールを頂いた。涙無くして語れない。30年前であろうか？筆者はある会議で『将来の日本のあるべき姿』を問われ冗談交じりに『日本肝臓論』を語ったところ大きな反響を頂いたことが今回鮮明に思い出された。

*肝臓の主な特徴として下記を挙げた、*

- 1) 正常な状態では細胞分裂は静止期にある。
- 2) 傷害時、必要とあれば強い再生力を示す。
- 3) 異物に対して免疫寛容性がある。
- 4) 解毒・代謝作用がある。さらに、下記を追加し5か条にしたものである。
- 5) 血中を流れているたんぱく質の80%は肝臓で作られていると言われている

日本国も肝臓のような国になれば、世界から尊敬されるという趣旨である。

【人間の身体と臓器、組織、細胞の役割分担と お互いの非連続性の中の連続性、そして、障害時における全体的な『いたわり』の理解は、世界、国家、民族、人間の在り方への深い洞察へと誘うのであろう。 かつて、新渡戸稲造は国際連盟事務次長時代に、『知的協力委員会』を構成し知的対話を行った。今こそ国際貢献として、『21世紀の知的協力委員会』の再興の時である。】 それから、世田谷区の経堂駅に向かった。 恵女学園中学・高等学校の入学式に参列した。『あなたがたがわたしを選んだのではありません。 わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。』（ヨハネの福音書15章16節）& 『愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい』（コロサイ人への手紙3章12節）。 真摯な生徒には大いに感動した。理事長として筆者は登壇し 保護者に向けて挨拶する機会が与えられた。 大変貴重な 充実した有意義な 1日となった。